

「東奥日報」青森報道部長
本間 善幸

ご当地グルメ ヒーローズ

青森県の名物行政マン・鈴木マグロー&地域バカたちの
新・ご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」をめぐる冒険



写真は「深浦マグロ料理グランプリ2015」のスタッフ一同

2020年3月16日(月)発売 四六判/244ページ

ご当地グルメヒーローズ

青森県の名物行政マン・鈴木マグロー&地域バカたちの
新・ご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」をめぐる冒険

「東奥日報」青森報道部長

本間 善幸 著

定価 1650円(税込)

<購入方法>

「深浦マグロステーキ丼」公式サイトトップページから「ご当地グルメヒーローズ」販売専用サイトに入り、購入手続きをして下さい。送料は、一冊につき全国一律350円(税込)です。

ご購入(お買い求め)は [深浦マグロステーキ丼](#) 検索 

「地方創生型ノンフライクシヨンストリー」 陸の孤島・青森県深浦町発の

<内容>

プロローグ / 人口8000人の「陸の孤島」に24万人のお客さんがやって来た!

第1章 / 2011年11月2日。すべては2人の名刺交換から始まった

第2章 / 「箸もつけないあの髭メガネ」をみんなでギャフンと言わせる

第3章 / 「新・ご当地グルメ」誕生秘話&プロデューサー・ヒロ中田の素顔

第4章 / 西崎会長が見つめてきた1人用ジンギスカン鍋で開発が一気に加速

第5章 / 20~30代の鈴木マグロー。実は、鳴かず飛ばずだった?

第6章 / 商品は完成したが、肝心のマグロが水揚げされず、デビュー延期に

第7章 / 初年度のマグステ丼は4万134食、経済効果は2億2000万円!

第8章 / ダンスユニットの結成や料理グランプリ開催など、新企画を次々と

第9章 / メニューは1品だけ。日本初?のユニークな役場食堂がオープン

第10章 / 新・ご当地グルメネットワークあおもり設立。食で青森県を元気に

エピローグ / 2030年の深浦町の「食と観光」を考える~あとがきにかえて~

著者プロフィール

本間 善幸(ほんま・よしゆき)

1967(昭和42)年、山形県鶴岡市出身。県立鶴岡南高校、日本大学法学部を卒業後、1990(平成2)年、東奥日報社に入社し、校閲部に配属。その後、整理部、むつ支局、出版部、事業部、三戸支局長、社会部、報道部次長などを経て、2012年4月~2016年3月、鯨ヶ沢支局長(深浦町、鯨ヶ沢町を管轄)。2016年4月~2018年3月、黒石支局長。2018年4月から青森市政などを担当する青森報道部長。

発行所 / 深浦マグロ料理推進協議会

〒038-2324 青森県西津軽郡深浦町深浦字苗代沢84-2深浦町役場 観光課内
電話 0173-74-2111



2013年6月14日にデビューした
新・ご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」

本書の主人公・鈴木マグロー。
元ラガーマン。深浦町役場観光課職員。
「下町ロケット」「ノーサイド・ゲーム」で
知られる作家・池井戸潤のファン。